

## 平成24年度福井県男女共同参画審議会開催結果

### 1 開催日時

平成24年11月28日（水） 13:45～15:51

### 2 開催場所

県庁7階特別会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

9名（高田会長、塚本委員、小泉委員、室谷委員、高嶋委員、近藤委員、吉川委員、山内委員、長岡委員）

【欠席】（加藤委員）

#### (2) 事務局

片山総務部企画幹、男女参画・県民活動課長、男女参画・県民活動課員、男女共同参画推進会議幹事課員、生活学習館職員

### 4 主な意見など

#### 議題 会長および副会長の選出

高田委員を会長 近藤委員を副会長に選出

#### 議題 男女共同参画施策の推進状況

##### 【市町】

- ・ 男女参画計画がない市町があるが、県は働きかけているか、市町の独自性を尊重しているか。
- ・ 計画は市町独自のもので、地域で状況が違うため、それを踏まえ計画を作ってもらおう。市町の計画策定状況や県で課題と考えていること、県計画の内容を話し参考にしてもらおうなど、県から働きかけている。（事務局）

##### 【相談】

- ・ 生活学習館の相談件数が平成21年度は少ないが、その背景は。
- ・ 一人が何度も相談を行うことがある。それが落ち着くと件数が減って見える。（事務局）
- ・ 精神に関する相談は、精神保健福祉センターという専門窓口がある。そこを利用いただいたことも影響。（事務局）
- ・ 市町に相談員がいる場合もあり、相談を振り分けることもあるので、平成21年ももっと相談件数があるだろう。

##### 【男性の育児休業】

- ・ 男性の育児休業取得率が平成21年は全国と遜色ないが、平成23年に全国は2%以上に上昇。県は0.9%に下がったことについて、認識と対策は。
- ・ 男性の育児休業は「就業状況基礎調査」で調査。十分分析はできていないが、育児のため休んでも年次休暇で処理する場合もあり、回答に反映されていないようだ。（事務局）

- ・ 男性の育児休業は丹南地区の中小企業で1年とった方や、半年程度の例もある。実際の取得者や企業を声をちらしにし、意識啓発していく。(事務局)
- ・ 目標は5パーセントなので、上がり調子かどうか重要。
- ・ 自分も保育士なので周囲の期待があったが非常に取りにくい。男性は壁をこえないと取れない。自分も取れてない。PR活動があると取りやすい。
- ・ 今は女性の取得は当たり前だが、当初は取りにくい雰囲気。性別による分担意識を払拭するため、家事チャレンジ検定など家事育児を一緒にする雰囲気づくり、「親子遊び塾」等子どもと一緒に過ごす時間づくり、父親子育て奨励企業表彰など、少しずつ取り組んでいる。地域の意識を変えることは重要。(事務局)
- ・ 男性は女性が取るより一步どころから二歩壁がある。そういう雰囲気がある。休業取得事例やメリットをうち出すといい。
- ・ 三世同居が多く子育てに利点があるが、上の世代の考えが若い世代に影響する、あるいは地域的問題もあり、男性の育児休業は取りにくいと聞いている。意識啓発が必要。

### 【家事チャレンジ検定】

- ・ 家事チャレンジ検定はおもしろい。自分もやった。

### 【女性リーダー育成支援】

- ・ 女性をリーダーやメンターとして育てることが大事。リーダー候補生育成に予算をまわすべき。予算に限りがあるからこうなる、というのではなく、もう少し重点的に予算をかけるべき。
- ・ 今年度から年間を通じ女性リーダーを積極的に養成。33名が育成プログラム参加。これ以外にも単発研修を行っており、その参加状況も見て予算の増額については検討していきたい。(事務局)

### 【女性の起業支援】

- ・ 女性の起業がどう進展したか、6次産業化事業の中で把握できるか。
- ・ 6次化事業は園芸畜産課所管。園芸畜産課に確認して、お答えする。(事務局)

### 【児童館などの支援】

- ・ 仕事と家庭の両立推進を支援してほしい。放課後クラブは延長しても6時半くらいまでで、まだまだ足りない。
- ・ 「すみずみ子育てサポート事業」も知られてない。子育て世代の目に触れてない。広報が手薄。
- ・ 放課後子どもクラブは小学3年から6年生まで拡大し、市町とともに助成している。人口増加している地区など、地域によっては十分対応できていない地域もあると聞いている。また、ちらしで啓発しているが知らない方もいる。努力していきたい。(事務局)
- ・ なかなか目に触れない。私も教えてもらって知った。3年生までが対象だが満杯で、1年生までしか入れない。現実はそのようなので、目を光らせ支援してほしい。
- ・ 広報の効果的やり方を親から聞くと少し違う。子育てに限らないが、必要な情報が必要な人に届かないことはある。

### 【保育サービス支援】

- ・ 保育施設や保育サービス充実に町は力を入れている。

- ・ 不景気で、臨時で勤める男性増加など、二人とも働かないと生活できない状況。短時間で親と子どもがスキンシップを取ることが必要だが、子どもの愛情不足が増える可能性がある。
- ・ 少人数の保育士が多数の子どもをみるのでは子どもが安定しない。同じ人が、特定の子どもにつくことが必要。少人数で多数の子どもをみるのは子どもによくない。
- ・ 保育士は多忙。病気で早く辞める人もいる。その対応に町だけでは手が回らないので、県も多少支援願いたい。
- ・ 思春期の子どもとの状態と小さい頃の状態は関係があり、重要。十分愛情を注がないと思春期に問題がでることがある。子どもの将来の幸せを考えると、町に任せず県も考えてほしい。
- ・ よりよい保育を進めるため、県も各事業を実施。低年齢児は保育士の負担が大きいため国基準にプラスし増員配置している。(事務局)
- ・ 保育の質を高めるほか3歳まで家庭で保育すべきとの意見が保育士からある。そこに視点を置いて進めることも重要と考えている。(事務局)
- ・ 3歳まで家庭で保育することは、父母が時期をずらして育児休業を取る、父母どちらかが育児休業を取得できる環境整備と一緒に考えないと「仕事をやめなさい」としか聞かえない。
- ・ 育児休業取得と保育施設について、あわせて検討すべき。
- ・ 父母交代で育児取得できる体制や保育園充実、労働時間短縮がないと、3歳までの家庭での保育は難しい。
- ・ 保育体制整備とあわせ、仕事と家庭の両立支援、育児休業を取りやすい体制・環境整備など検討を進める。(事務局)

## 【介護】

- ・ 男性の家事参加、働き方という点では、今後は介護が問題。育児は予定が立つが介護は明日からかもしれない。今後の高齢社会を考えると、職場や地域の雰囲気づくりなど、仕事と家庭が調和する環境づくりが必要。男性も介護と携わっていく必要があり、そこに視点を置いて進めるべきと考えている。(事務局)
- ・ 介護休業は93日。今後の予定を立てることでせいぜい。休業期間から先の計画を立てられる体制をとらないと、介護期間を働きながら乗り切るのは非常に難しい。

## 【女性活躍全般】

- ・ 子育て支援をきちんとしていないと育児期に仕事を辞めるというデータがある。そこで男性も育児休業を取れるとPRしているが難しい。何とかしないといけないと強く思っている。
- ・ 子育て期のハード面のサポートも大事だがソフト面のサポートも行うと、女性も心置きなく能力を活かして仕事ができ、それが管理職登用につながり、異分野の仕事へのチャレンジにもつながる。
- ・ 女性活躍と仕事と家庭の両立は裏表・車の両輪の関係。県も各施策が全体として男女共同参画を推進する方向で考えてほしい。

## 議題 第2次福井県男女共同参画計画の重点事項に係る施策の状況

### 【子育てモデル企業】

- ・ 「子育てモデル企業」に登録された企業は、本当にたいしたもの。

### 【保育の充実、女性が働き続けられる環境など】

- ・ 男性社員が3、4人子どもを養おうとすると、奥さんに子どもをみてもらうことになるが、奥さんも仕事がある。そうすると、しっかりした保育園が必要。
- ・ 幼稚園は維持できず、保育園になってきている。子どもを保育園でしっかりお預かりしたことが、その子にとって結果的に非常にいいということが、たくさんある。
- ・ 保育園の充実で、女性も男性もいろんな形でもっと仕事ができる。子育てに不安があると、それが非常に難しい。
- ・ 現役で働く女性のリーダーシップや、啓発もおおいにやってもらいたい。女性が仕事をする上で子育てに心配ないよう保育園を制度的にもっと拡充することが、結果的に女性を伸ばすことにつながる。
- ・ 預けられた子供が幸せかという、今の職員の数あるいは職員の体制のままでは、ぎりぎりもしくはマイナス。充実にもう少し力がはいればいい。
- ・ 母親が働きたいと思うと子どもを預けなければいけない。預けて充実すればそれでいいというものではなく、保育士としても全力のバックアップが必要だが、子どもが犠牲にならないよう、子育て支援充実が大切。
- ・ 子供を預かるのであれば、充実した預かり方をするのは当たり前の話。
- ・ 2000年のOECDレポートでも、先進国では女性就業率が高い国ほど、たくさん子どもを産む傾向がでており、女性が働き続けられる条件を整えないと、子どもを産む選択はしづらい。
- ・ 女性の育児休業取得率は高いが、女性は出産後に半数が仕事を辞め、残った方の取得率なので、見かけ上高いだけ。日本は女性が仕事を続けながら子どもを産み育てる状況が整っていない。
- ・ 女性が仕事を続けながら子どもを産み育てられるよう支援することが、出生率を上げることにもつながる。
- ・ 子育てが女性にかぶさっていたのを、社会と女性と男性、家事検定のような形などで3等分していくのが理想的。
- ・ M字型就労のように、女性の働き方は育児に規制されてきたので、育児の社会化は非常にウエイトがあり、県もサポートをお願いする。
- ・ 仕事を続けると決めた時、仕事を続けられる環境があることが大切。
- ・ 保育園は待機児童がなく、比較的ケアしてもらえるが、学校に行くと、放課後児童クラブや児童館になる。周辺部はゆとりがあるが、真ん中の学校は満杯。
- ・ 一小学校に一児童館でなく、児童館数を複数にし、少しでも母親や家族が働くことを助けられる環境となるよう県が支援すると、母親、家族が継続して仕事ができる。

### 【保育園と幼稚園 保育と子ども】

- ・ 福井は共働きが多いので、低年齢児入所率が高い。
- ・ 一番負担を抱えるのは親でなく子どもである。
- ・ 子どもが幼児期を幸せに過ごすには保育の充実が必要。

- ・ 理想は、低年齢児は家庭でみるものだと思う。
- ・ 3歳まで親が手元におく、というのは理想的。
- ・ 昔は、幼稚園は教育、保育園は預かればいいという感じだったが、今は保育園も幼稚園もあまり関係がないところまで来ている。
- ・ 保育園、幼稚園の教育内容と小学校での成績の伸びは全く関係ない。
- ・ 幼児教育が非常に重要なので、11月に幼児教育支援センター設置。親の教育も含め、保育士や幼稚園教諭など小学校の低学年まで意識した形で取り組み始めた。(事務局)

### **【学校の役割】**

- ・ 女性が家庭で子どもを育てるにしろ、仕事するにしろ、決定するのは自分で、決定したことを進める、ということについて意識づけしていくのが学校における教育の使命だと思う。